

〈解答〉

- ① 1 ① およ ② ひつてき ③ 振 ④ 比較
 2 移行
 3 「活用の種類」五段活用・「活用形」連用形(完答)
 4 A 2 B E
 5 こごとへん
 6 6

配点 各1点 10点満点

〈解説〉

- ① 「及」の音読みは「キュウ」であり、「及第(一定の基準に達していること)」「言及(会話や文章などでその事柄について触れること)」「波及(少しづつ影響が広がっていくこと)」「などの熟語がある。② 「匹敵する」は、「比べてみて価値や能力が同程度であること」「肩を並べること」という意味。「匹敵する」の類義語は「比肩する」などがある。③ 「振」の音読みは「シン」であり、「振動(ゆれ動くこと)」「振興(勢いを盛んにすること)。また、盛んになること)」「共振」などの熟語がある。④ 「比較」は、「二つ以上のものを互いに比べあわせること」という意味。「較」には、「比べる」という意味があり、「比較」という熟語は、意味が似ている漢字を組み合わせてできた熟語である。
- 2 「移行」は、「ある状態から他の状態へ移っていくこと」という意味。「以降」は、「それより後」という意味。二重傍線Aの部分正しい漢字に改めると、「産業社会から情報化社会へと移行してからというもの」となる。
- 3 「思う」に「ない」をつけると「思わ_ない」と活用するので五段活用だとわかる。また、直後に助動詞「ます」がついているので、「思い」は連用形だと分かる。
- 4 自立語の中で、活用せず、「が・は・も」などをつけることで主語になることができるものを体言といい、品詞では、名詞がこれに当たる。「それらの情報をいち早く伝えてくれます」の中にある名詞は、「それら(代名詞)」「情報(普通名詞)」の2つである。
- 5 「際」の部首は「阝(こごとへん)」である。こごとへんの漢字には、「院」「階」「陽」などがある。
- 6 「情報を客観的な視点で確かめることが必要です」を文節に分けると、「情報を／客観的な／視点で／確かめる／ことが／必要です」の6つに分けることができる。文節とは、発音や意味のうえで不自然にならないように、文をできるだけ短く区切ったまとまりのことであり、「ネ・サ・ヨ」をつけて判断することができる。一つの文節には自立語は一つしか入らない。